ヤノベケンジ氏

宮原秀夫氏

と面白いものができるでしょうね。海外と結ぶと夢がひろがります。市民のアートやまちづくりへの参加意識も一層高まると思います。

## 夢が持てるまち

**ヤノベ**　宮原さんたちのご研究は、まさに普通では見られない、触れないものを見たり触れたりしたいという欲望がもとになっているんですね。私が大阪に龍を出現させたいと思ったのも、見てみたい、触れてみたいという欲望やイマジネーションが源です。龍やロボットはリアルな体験ですが、リアルなものがあるから、一方で、宮原さんたちが開発されたバーチャルな体験もより深く理解できるように思います。

**宮原**　逆に、バーチャルな体験をしたから、本物を見てみたいという気持にもなるでしょう。だからこそ、そこに行ってみようという気になる。そんな気持にさせる技術開発であり、大阪のまちにしたいですね。

**堀井**　中之島や北ヤードといったひとつの場所でアートムーブメントを完結させるのではなく、先ほどの高速通信技術を使って立体映像をやりとりするお話のように、まちとまちをつなぎ、大阪全体を巻き込んで、例えばドラゴンが大活躍するようなストーリー性のある展開にすれば、もっ

**堀井**　ラッキー・ドラゴン号に乗っている「トらやん」は、どういう発想からきているのですか。

**ヤノベ**　「トらやん」というチョビ髭のキャラクターは、私の父が定年後に趣味ではじめた腹話術の人形です。私は大阪の生まれ育ちですから、大阪的なものからインスピレーションを多く得ています。だから作品の中にも大阪的なユーモアを取り入れています。

**堀井**　ロボット的な作風はどうですか。

**ヤノベ**　巨大なロボットを操縦してみたいとか、まちに怪獣が出現したらどうだろうかという、子どもの頃に描いていた夢の実現ですね。単純な発想ですが、これは子どもに共通してある夢だと思います。そうしたものを具現化することで、多くの人の感動を得たり、人々の創造力を刺激するきっかけになればと思っています。

**堀井**　これを作るのに、ずいぶん多くの人たちが参加されたそうですね。

**ヤノベ**　大阪工業大学や京都造形芸術大学をはじめ、一本松海運の社長さんには、自ら図面をひいていただいて機構部分をつくりました。ラッキー・ドラゴン号には、人々に共通する夢を実現するというテーマがあったんです。

**宮原**　若者や子どもが夢を持てるまちにしたいですね。先ほど「大阪人とアートは結びつかない」という意見があったと言われましたが、私も堀井さんと同感で、そうは思いません。そんなことばかり言っていては、いつまでたっても大阪は元気にならないでしょう。以前、堂島リバーフォーラムで立体映像をお披露目したとき、そのコンテンツ制作を募集したら、若手クリエーターの人たちからとてもたくさんの応募がありました。みんなが楽しくなるように、みんなでつくりあげていく。北ヤードでは、そういう気運を育てたいと思っています。

**堀井**　なるほど。水都大阪2009によって、大阪の人はアートにも関心を持ってちゃんと応えてくれるということが実証されました。

大川を航行するラッキー・ドラゴン号（水都大阪2009）